

「水環境学会誌」原著論文編執筆要領

1. 一般的注意事項

- ①原稿の本文の用語は日本語とする。
- ②原稿は、内容が独立して完結しているものとし、表題に「第〇報」的な通し番号は含めない。
- ③英文要旨では、研究の目的、結果、および得られた重要な知見や論点をまとめること。要旨本文の長さは、200語を超過してはならない。なお、5語以内のキーワードを選び英文要旨の下部に記入すること。投稿原稿の英文題名および英文アブストラクトの校閲を実施する。原則として第1回修正原稿のアブストラクトを対象として査読部会が専門家に英文校閲を依頼し、その結果を後日著者宛に送付する。なお、アブストラクトに最終的に責任を持つのは著者であり、英文校閲結果は強制力を持つものではないが、アブストラクトの最終原稿を作成するに当たり、英文校閲の結果を十分に参考にさせていただきたい。この英文校閲にかかる費用は学会が負担する。
- ④本文の区分けは以下の記号を用い、大見出し、中見出し、小見出しなどを明瞭にすること。

[例] 2. 研究方法

2.1 分析方法

2.1.1 微生物学的方法

(1) 一般細菌数

(a) 培地

- ⑤句読点には“,”および“.”を用い、“,”や“.”などは用いないこと。
- ⑥本文中で使用する単位はSI単位系にしたがって表記することを原則とする。ただし容量単位は、リットル(*l*)あるいは立方メートル(m^3)を用いることを原則とし、特別に必要な場合を除き、立方デシメートル(dm^3)は使用しないこと。
- ⑦生物名は和名の場合片かなを用い、学名はイタリック体にする。
- ⑧図表はタイトルや説明文を含めて英文とし、通し番号をつけること。
通し番号のつけ方 図: **Fig. 1, Fig. 2, …**
表: **Table 1, Table 2, …**
- ⑨写真は図として取り使う。したがって、扱いはすべて図に準じ、番号も図と同一の通し番号を使用する。なお、カラー写真のように印刷に多額の費用を要するものについては、その費用負担は「水環境学会誌」原著論文編投稿要領及び「水環境学会誌」特集企画編寄稿要領に記載のとおり取り扱う。
- ⑩図表および写真は上段か下段に入れること。
- ⑪謝辞(必要な場合)、記号表(特に記号が多い場合に作成することが望ましい)は本文末尾に付すこと。
- ⑫参考文献は本文中に、引用順に右肩に片かっこ(例: ¹⁾, ^{1, 2)}, ^{1~5)}, ………)で示し、原

稿末尾に番号順に一覧にすること。その記載方法は4. 参考文献の記載方法を参照すること。

- ⑬その他、不明な点は出力見本を参照し、それに準じて原稿を作成すること。

2. 「完全版下原稿」に関する注意事項

- ①A4判の白紙に所定の書式に従って印刷すること。
- ②文字サイズ、フォント、マージン、スペースなどは見本の指示に従うこと。
- ③文字は2段組みとし、1行25文字、1ページ56行を標準とすること。

3. 参考文献の記載方法

雑誌

- ①著者名、掲載年、表題、雑誌名、巻、ページの順に記す。掲載年は()書きし、表題、雑誌名、巻、ページそれぞれの間をコンマ(和文誌では全角、英文誌では半角を用いる)で区切り、最後はピリオド(体裁はコンマの場合と同じ)を付すこと。
- ②字体は、和文誌の場合には明朝体を、英文誌の場合の学名および英文雑誌名にはイタリック体を用いること。
- ③雑誌名については、和文誌の場合には省略せずに記し、英文誌の場合には省略名を用いてもよい。省略方法はそれぞれの雑誌の慣用に従うこと。
- ④巻(Vol.)についてはボールド体を用い、ページについては原則として通巻ページを記すこと。ただし、号(No.)ごとのページのみで整理される雑誌の場合には、巻の次に号を()内に記し、号ごとのページを記すこと。巻数がなく号数のみの雑誌の場合には、号のみを()書きとすること。

記載例

- 1) 吉村孝一, 中柴篤男 (1982) 活性汚泥による直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(LAS)の生分解性に関する研究(I)—LASの吸着機構について, 水質汚濁研究, 5, 27-34.
- 2) Kikuchi, M., Wakabayashi, M., Kojima, H. and Yoshida, T. (1980) Bioaccumulation profiles of ³⁵S-labelled sodium alkylpoly(oxyethylene) sulfates in carp (*Cyprinus carpio*), *Water Research*, 14, 1541-1548.

単行本

- ①著者(编者)名、発行年、書名、ページ、発行所、発行場所(都市名)の順に記す。発行年は()書きし、書名、ページ、発行所、発行場所それぞれの間をコンマ(和文誌では全角、英文誌では半角を用いる)で区切り、最後はピリオド(体裁はコンマの場合と同じ)を付すこと。字体については「論文」の場合に準ずること。
- ②書籍の一部の章等を参考文献とする場合には、章等の著者名、発行年、章等の表題、書名

(和文書籍“[]”書き, 英文書籍“in “ ””書き), 編者名(和英文書籍ともに“()”書き), ページ, 発行所, 発行場所の順とすること。

- ③ ページの表記は, 1 冊すべてを引用する場合には“○○pp.”, 一部分の場合には“pp.○-○”の表現を用いること。

記載例

- 1) Fogg, G. E. (1975) Algal Cultures and Phytoplankton Ecology, 2nd Ed., 175pp., Univ. of Wisconsin Press, Madison, Wisconsin.
- 2) 合田 健 (1975) 水質工学 (基礎編), 150pp., 丸善, 東京.
- 3) Bierman, V. J. Jr. (1976) Mathematical model of the selective enhancement of blue-green algae by nutrient enrichment, in “Modeling Biochemical Processes in Aquatic Ecosystems” (Ed. Canale, R. P.), pp.1-29, Ann Arbor Science, Ann Arbor.
- 4) 坂本 充 (1982) § 3 湖沼の富栄養化, 「湖沼環境調査指針」(社団法人日本水質汚濁研究協会編), pp.11-13, 公害対策技術同友会, 東京.

ウェブページ

- ① 著者(編者)名, 作成年(不明の場合は省略可), ページ名, URL, 確認年月の順に記すこと。作成年および確認年月は()書きとする。確認年月は原稿執筆時の直近とし, “○年○月時点”の表現を用いること。また, ページ名, URL それぞれの間をコンマで区切り, 最後はピリオド(体裁はコンマの場合と同じ)を付すこと。

記載例

- 1) U.S.EPA (2007) EPI Suite, Version 3.20, <http://www.epa.gov/opptintr/exposure/pubs/episuite.htm> (2008年10月時点).
- 2) 農林水産省動物医薬品検査所 (2008) 動物用医薬品等データベース, http://www.nval.go.jp/asp/asp_dbDR_idx.asp (2008年10月時点)

(平成21年2月9日制定)